

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

和歌山県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	粉河町立 粉河小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	3	2	2	3	17	23
児童数	87	68	77	89	71	76	6	474	

研究の概要

1. 研究主題

わかる喜びをどの子にも —— 一人ひとりが意欲をもち、楽しく学ぶ学習指導 ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・算数：児童の理解の状況に少し差が出やすい教科、学年であるため
 - ・ 国語：一番授業時間が多く、すべての教科の基礎となるから
 - ・ 生活：指導者を複数配置して、より行動範囲・交流範囲が広がるため
- ・ 2年生・算数：児童の理解の状況にかなり差が出やすい教科、学年であるため
 - ・ 国語：すべての教科の基礎となり、特に「筋道を立てて書く力」を育てたいから
 - ・ 生活：指導者を複数配置して、一年生より学習範囲・交流範囲が広がるため
- ・ 3年生・算数：学習内容が増え、知識理解にかなり差が出やすい教科、学年であるため
 - ・ 音楽：技能習得、音楽の楽しさや美しさを味わう力を育てたい学年であるため
 - ・ 総合的な学習の時間：IT教育では、複数教員による指導が最適と判断したため
- ・ 4年生・算数：学習内容が急に難しくなり、知識理解に特に差が出やすい教科であるため
 - ・ 国語：知識技能、読解等すべての教科の基礎となり、且つ自己表現の重要な作文力強化につながるため
 - ・ 社会：体験活動を通して理解を深め資料活用等単元によりジグソー学習が適切と判断したため
 - ・ 総合的な学習の時間：IT教育では、複数教員による指導が最適と判断したため
- ・ 5年生・算数：学習内容がとても難しくなり、知識理解、特に時間をかけて問題解決をするための少人数指導が最適であるため
 - ・ 社会：体験活動を通して理解を深め、資料活用等単元により少人数指導が適切と判断したため
 - ・ 保健：資料選択学習により楽しい授業展開ができると判断したため
 - ・ 音楽：複数教員によるTT指導で、音楽の楽しさ・美しさ、幾つかのメロディを合唱・演奏したりしてひとつに創り上げる喜びを味わう力を育てたい学年であるため
 - ・ 総合的な学習の時間：IT教育では、複数教員による指導が最適と判断したため
- ・ 6年生・算数：6年間の総まとめの学年として知識理解、技能、数学的な考え方、特に時間をかけて文章問題等自分の力で問題解決するための少人数指導が必要であるため

- ・社会：社会的な思考・判断力、社会的事象への関心・意欲・態度を育て、歴史学習の新しい指導方法の開拓に取り組むため
- ・体育：対外行事での運動技能の習得はもちろん、自分を含む周りへの健康・安全について複数教員による実績を積むため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>学習意欲を高める指導体制および指導形態の研究</p> <p>研究の見通し</p> <p>個に応じたきめ細かな指導体制を確立することにより、児童の学習意欲が高まり学力向上が図れる</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画および指導体制の研究 ・T Tによる指導法（1・2年生）習熟度別少人数指導の方法（3～6年生）についての研究 ・教科担任制の導入
--------	--

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>個に応じたきめ細かな指導；わかる授業、楽しい授業の創造</p> <p>研究の見通し</p> <p>学力向上を図るうえで最も重要なものは「学ぼうとする意欲」であるとする。その「学ぼうとする意欲」は、工夫された教材・教具によって喚起され、さらに、個に応じた指導方法や指導体制によって高まり、指導目標や指導内容に合致した正しい評価によって持続させることができる。また、「学ぼうとする意欲」を支えているものは、「わかった」「できた」という「学ぶ喜び」である。これらのことからわたしたちは、児童の学習意欲を引き出し、高め、持続させるための指導方法・指導体制や評価の在り方、教材教具の開発等について研究を進め、児童一人ひとりに「わかる喜び」を味わわせることにより学力の向上を求めていく研究実践を追求していきたいと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>研究テーマにせまるために、校内研修の計画の立案及び実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力の実態を明らかにし、取り組みの方向性を探る。（校内でレディネステストを常に実施） ・わかる授業・楽しい授業・個に応じたきめ細かな指導について、北 俊夫 教授や、指導主事等による要請指導等を計画し、教職員の研修や研究の充実を図る。個に応じた指導のための指導方法の工夫（少人数指導；習熟度別・課題別・興味関心別、T T指導、部分的少人数指導・部分的T T指導；今後授業の複線化、複々線化、単線化と呼ぶ）や教材・教具の開発、評価法の工夫の研究 ・1年生・2年生は、児童の発達段階に則し、個に応じた指導の一環として算数国語・生活等にT T指導のみならず積極的に少人数指導（課題別・興味関心別等）を取り入れる。
--------	--

- ・ 3年生・4年生では、算数・国語・音楽・総合的な学習の時間等にTT指導、少人数指導（習熟度別・課題別・興味関心別）一斉指導の中での少人数指導を導入した研究を行う。
- ・ 5年生・6年生では、算数・社会・理科・体育・道徳・総合的な学習の時間等にTT指導、少人数指導（習熟度別・課題別・興味関心別）一斉指導の中で少人数を導入した研究を行う。

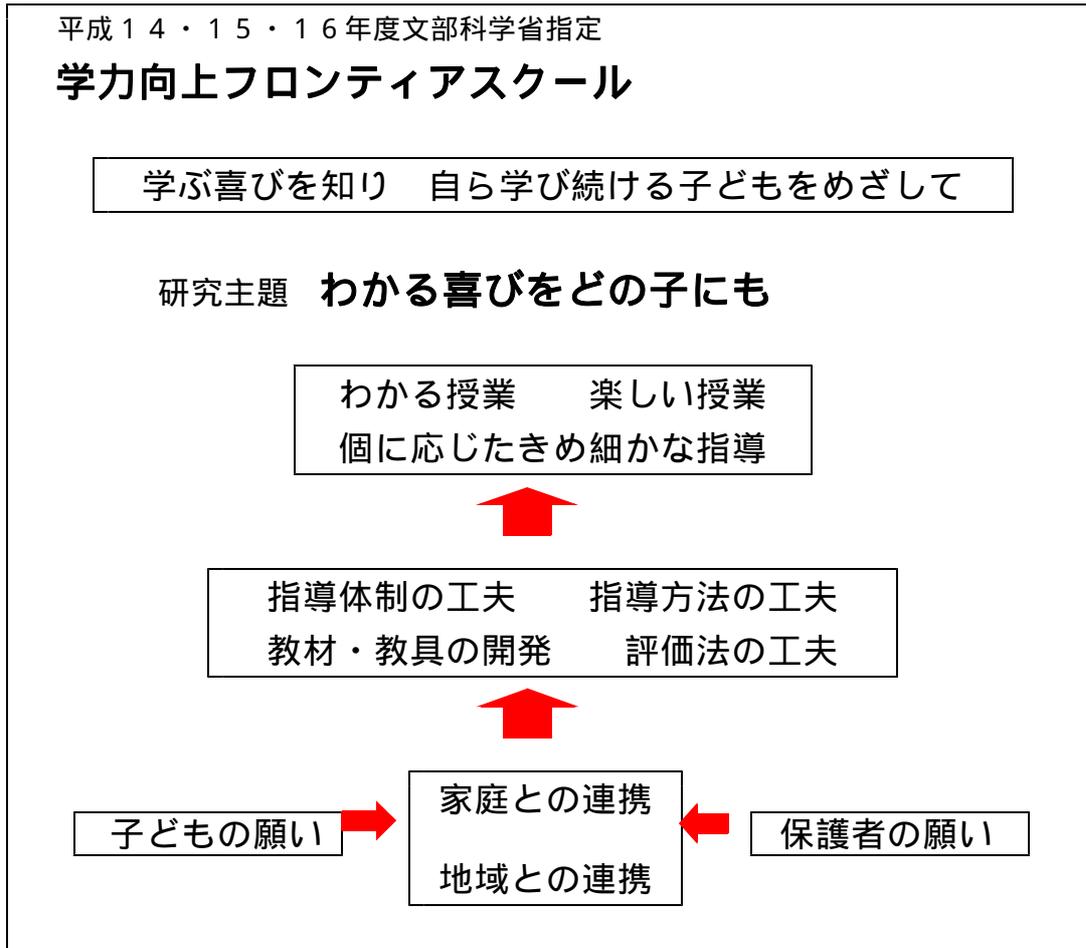
平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>個に応じたきめ細かな指導；わかる授業、楽しい授業の創造</p> <p>研究の見通し</p> <p>個に応じた指導を充実させるため、15年度よりさらに指導方法を研究し、新たな指導方法を開拓する。</p> <p>少人数指導；(習熟度別・課題別・興味関心別)</p> <p>学習の複線化・・・部分的少人数指導・部分的TT指導</p> <p>個に応じる地域人材の活用（学習支援ボランティアの活用）</p> <p>ジグソー学習 資料選択学習 TT指導</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善は、児童の実態、学校の実態をふまえ、常に最も効果的な方法を模索し、学校全体が共通理解のもとに進めていく。15年度に試みた指導方法（上記の学習）だけでなく、柔軟な学習集団を編成したり、その実施にあたっては実情・発達段階・習熟の程度等適宜弾力的に行う。また、教師の特性を生かしたり、学年の枠にとらわれず全職員が全校児童を担任するという考え（学校担任制）や、さらに、学校内にとどまらず、学校外の様々な分野の専門家の参加・協力を得たりして（学習支援ボランティアも含む）指導の効果を高める。</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制

研究計画

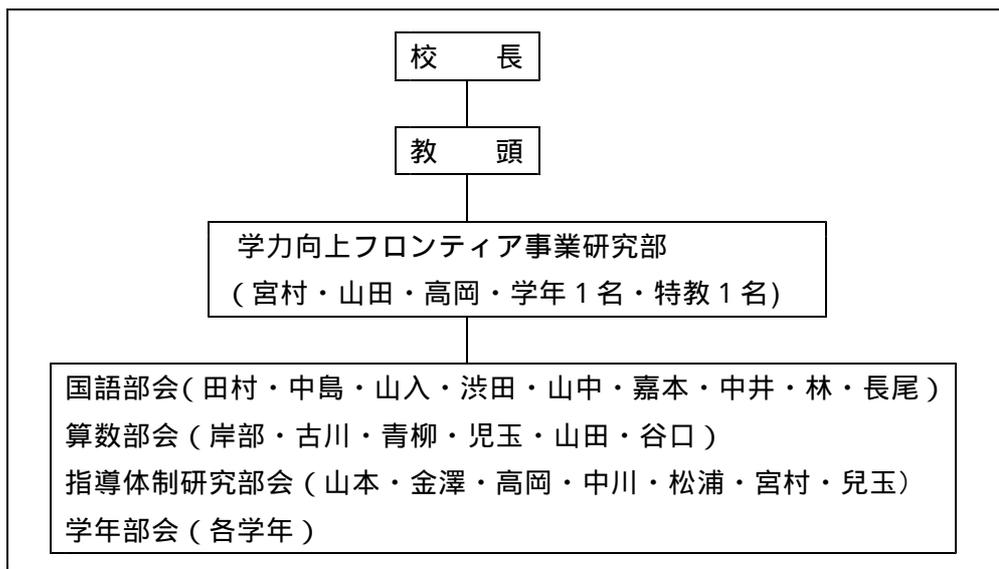
1年次（平成14年度）	2年次（平成15年度）	3年次（平成16年度）
中間研究発表会(11月10日)		研究発表会(11月5日)
指導体制・指導法の研究		
授業改善に生きる評価の研究		指導と一体化した評価の研究
教材・教具の開発研究		
学力調査・夏季研修	学力調査・夏季研修	学力調査・夏季研修
1年次中間研究報告会(2月10日)	2年次中間研究報告会(2月13日)	3年次最終研究報告会(2月予定)

研究構想図



研究組織

学力向上プロジェクト研究組織



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

第1学年では、算数でTT指導や課題別少人数指導を実施した。3クラスを等質に5グループに分け、習熟段階でどの子ども楽しみながら学習できるよう、課題別少人数指導を取り入れた。ローテーションしながら5つの課題のコーナーで計算の習熟を図るやり方は、生き生きとした授業を提供できた。また第2学年では、中間報告会の公開授業において興味関心別少人数指導に取り組んだ。それぞれ2クラスを自分の興味関心をもつ3つの学習コースに分かれての授業は、どの児童も楽しく進んで学ぶ姿が顕著に表れていた。本来、苦手とする「考え、筋道を立てて書くという作業」「作文」への関心が高まり、公開授業でも児童一人ひとりが「文を書く」ことに一生懸命取り組んでいたことは、単元を終えた後のまとめの作文集からも感じられた。第3学年の音楽における少人数指導（少人数指導による表現形態選択学習）では、児童が自分の表現形態に合わせてコース選択をし、じっくりと学習する様子を公開授業で見て頂いた。3人の教師による一斉指導 少人数指導 一斉指導の中で、独奏や斉奏では味わえない「響き合う音」をつくる活動や、歌声と楽器の音色が重なり合って醸し出す音楽の美しさや楽しさを味わっていた。第4学年では、国語科の文学作品「一つの花」で3クラスを等質の4グループに分け、ある時は場面別、またある時は登場人物の視点別で少人数指導を行った。視点を変えると同じ作品でも文学の味わい方が違って楽しいし、いろいろな意見交換ができて児童の中では大変好評だった。第5学年の社会科では、それぞれの生産過程の中で一斉指導から2グループに分かれ学習活動を複線化（安全パビリオン・部品パビリオン）さらに一斉指導することにより、個々の興味・関心を生かし課題意識をもって追求・解決しようとする児童の姿は、公開授業でも大きな話題であった。第6学年の歴史学習におけるデジタルコンテンツの使用は「動き」と「音」による画期的な指導方法であった。

2. 今後の課題

個に応じた指導を充実させるためには、TT指導や少人数指導がとても有効な手段であるが、それを各学年で同時に実施しようとする、指導者の確保が難しくなる。加配教員・管理職をはじめ、地域人材の活用、学習支援ボランティアの活用等人員の確保を検討中である。

さらに新しく個に応じた指導のための指導方法【少人数指導；習熟度別・課題別・興味関心別、学習の複線化；部分的少人数指導・部分的TT指導、個に応じる地域人材の活用；学習支援ボランティアの活用、ジグソー学習、資料選択学習、TT指導、教科担任制等】は児童の実態、学校の実態をふまえ、常に最も効果的な方法を模索し、学校全体が共通理解のもとに進めていく計画である。

また、教科の指導の場面に応じて、柔軟な学習集団を編成したり、その実施にあたっては実情・発達段階・習熟の程度等鑑み、適宜弾力的に行うことを十分配慮している。

その他、指導者間の打ち合わせの時間確保についても、学校行事の精選とその効率的な実施を心がけている。

最後に、TT指導や少人数指導における評価方法については、教師の観察力や、分析力など評価に関する力量を高めると共に、多様な評価方法を組み入れるようにしたい。どのように評価をすれば児童の意欲が高まるかという点で研究を進め、評価規準や評価方法をより改善し、評価結果を授業改善に生かせるそんな評価をしたいと考えている。

学力等把握のための学校としての取組

学力向上をめざすには、まず学力の実態を客観的につかむ必要がある。本校では、年1回6月に学力テスト(標研式CDT)を実施し、学力の実態を調査することにした。調査対象は2年生～6年生とし、算数・国語・理科の前学年での学習内容が身に付いているかどうかを調査した。その結果、本校児童の学力は概ね全国平均的レベルであるが、高学年になるにしたがって、算数では計算力や数学的な思考力、国語では、漢字を書く力の向上が望まれることが明らかになった。また、理科においては、科学的な思考力を、より高めていく必要があることが明らかになった。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年11月10日「学力向上フロンティアスクール」研究発表会(中間報告会)を実施、公開授業、研究発表、記念講演「個に応じた指導、評価」(北 俊夫 先生)を行う。

粉河地区学力向上推進協議会並びに2次研究報告会を、町内校長・研究主任に対して14年度は2月10日、15年度は2月13日(予定)に研究経過と成果・課題の報告を行う。

校報「粉小っ子」(全校配布)各学年だよりを通じて、学習状況・学習方法・到達状況・子どもや保護者の反応等記載し、理解を深める。

学校案内を全地区民に配布し、学力向上フロンティアスクールの取り組みを知らせる。

本校ホームページに随時、学力向上フロンティアスクールに関わる情報を掲載している。

(<http://www2.ocn.ne.jp/~ko-sho/>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	